



花を活用した地域活性化への取り組み

秋田県では、近年、個人の手により整備された小規模な「花の名所」が誕生している。男鹿市にある雲昌寺では、境内に咲き誇る青いアジサイが人気を集め、2019年の拝観客数は5.2万人となった。にかほ市のガーデンカフェ「Time」には、約1,000坪の庭で咲く500種強の花々を目当てに、年間5,000人が来店している。これらの地域では、住民が道案内や駐車スペースの提供をするなど等身大の「おもてなし」で見学者を歓迎し、地域活性化に繋がっている。

また、「オープンガーデン」という、個人宅や施設にある庭を一定期間公開するという活動が広がりを見せている。活動開始からまだ日が浅いものの、住民やガーデニングの愛好家が庭の見学に訪れ交流を楽しんでいる。

1 はじめに

秋田県は、今冬、強い寒波に襲われ、県南を中心に記録的な大雪となっている。例年以上に厳しい寒さに耐えながら、花の咲く季節を心待ちにしている人は多いだろう。眠っていた草花が目覚め、次々に蕾をほころばせると、各地では花を楽しむ人たちによる交流が生まれてくる。

本稿では、個人の取り組みをきっかけに、花を活用した地域の活性化や人々の交流が進んでいる事例を取り上げる。

2 花を活用した地域活性化への取り組み

(1) 雲昌寺

男鹿市北浦の雲昌寺では、梅雨時期になると境内一面に1,500株の青いアジサイが咲き誇り、訪れた人の目を楽しませている。

a 取り組みの経緯

副住職の古仲宗雲氏は、1995年に県外での修行から戻った際、以前よりも地域の活気が失われているように感じた。地域活性化の第一歩と

して、まずは檀家など身近な人に喜んでもらおうと、境内にあった1株のアジサイの増殖に取り組んだ。アジサイが増えるにつれ口コミで評判は高まり、全国からも注目が集まるようになった。旅行関連のWebサイト「死ぬまでに行きたい！世界の絶景・日本の絶景編」で2017年のベスト絶景に選出されたことを皮切りに、翌2018年に山手線の車両内にポスターが展示され、2019年には全国放送の報道番組で生中継された。2019年の拝観客数は5.2万人で、首都圏からのリピーターや、拝観を目的に来日した外国人旅行者も見受けられた。2020年は、新型コ



雲昌寺のアジサイ(男鹿市北浦)

コロナウイルスの感染拡大防止のため、県内客のみを受け入れ、夜間のライトアップは行わなかったものの、3.6万人が訪れた。

古仲副住職は、人気の理由を、①アジサイ寺として知られる寺院は全国に多いものの、一色のアジサイが広い敷地に咲く寺院は珍しいこと、②アジサイが一面に咲く様子が、いわゆる「インスタ映え」し、現在の観光需要にマッチしていること、と分析している。

b 地域への影響

観覧期間中、境内では、地元業者がアジサイを模した「ババヘラアイス」の販売、飲料の提供などを行っている。男鹿市内でも、観光施設や飲食店が、拝観チケットを提示すると割引になるサービスや、アジサイにちなんだ限定商品を提供し、消費者の獲得を図っている。

また、2016年に地域の有志が「おらほの北浦まちづくり協議会」を結成し、案内看板の設置、観光マップの作成などを手掛けている。メンバーは15名ほどで、観覧期間中には、空き店舗に観光案内の拠点「北浦まちびとコンシェルジュ」を設置し、まち案内や情報提供を行った。

檀家や近隣住民でも拝観客の増加を好意的に受け止める声が多く、観光客の道案内をする、駐車スペースを提供するなど、等身大の「おもてなし」を通じて歓迎している。古仲副住職は、「人気が高まるにつれ、住民の応援に熱が入るようになった。拝観客も、地域ぐるみで歓迎している住民の姿勢に好印象を抱いており、リピーターの増加に繋がっている」と語る。

c 今後の展望

拝観客の滞在時間延長に向け、2019年、ウシオ電機株式会社（本社：東京都）に依頼し、夜間ライトアップのブラッシュアップを図った。



ライトアップされたアジサイ(雲昌寺)

深海のような奥行きのある青みを表現することに成功したが、2020年は新型コロナウイルスの感染状況を鑑み日中のみでの拝観とした。現在のところ、2021年は夜間公開も予定している。また、近々、本堂の天井画を制作する計画を立てており、古仲副住職は、「既存の天井画とは異なる方法を用いて、雲昌寺でしか味わうことのできない美しさを表現したい」と話す。

これまでも男鹿温泉郷の宿泊需要を喚起するため、宿泊者を対象とする早朝の貸し切りツアーを実施しているが、ライトアップの効果により宿泊客が増加すると、地域では一層大きな経済効果が見込まれる。天井画は、アジサイが咲いていない時期にも男鹿市を訪れるきっかけとなり、通年観光に繋がることが期待できる。

また、古仲副住職は、長期的な目標として、アジサイを活用した「地域のブランド化」を掲げている。2019年から寺のアジサイを地域全体に移植する活動を行っており、新型コロナウイルス感染症が収束次第、活動を活発化させ、地域の知名度向上や集客力の強化に取り組む計画を立てている。

(2) ガーデンカフェ「Time」

にかほ市大竹のガーデンカフェ「Time」では、カフェの前に約1,000坪の庭が広がり、

3月から11月にかけてバラやジギタリスなど約500種の花々が咲く。

a 取組みの経緯

店主の佐々木利子氏は、2000年を過ぎた頃、両親と妹を相次いで亡くし、喪失感を癒すようにガーデンカフェのオープンを決意した。実家の荒廃した裏山を活用してガーデンカフェを開くことは、自身と早世した妹との長年の夢であった。独力で庭づくりに取り組み、2004年春にカフェを開店した。

丹精込めて育てた庭は2009年に全国ガーデニングコンテストで最優秀賞を獲得し、カフェは一躍全国で知られるようになった。2014年に佐々木氏が庭づくりの経緯を綴った文章が毎日新聞社「毎日農業記録賞」で優秀賞を受賞し、2019年に四季折々の庭の様子を紹介する著書（主婦と生活社『秋田のターシャ』と呼ばれて）を出版したことも、集客力の向上に繋がった。2019年の来店客数は約5,000人で、県外客が半数を占めた。現在は、大手旅行代理店が主催するツアーの目的地にも採用されている。

b 地域への影響

佐々木氏は、「400人余が住む大竹地域に大勢の来店客が訪れ、地域が活気づいたように感じる。また、住民は、『見られること』を意識するようになり、自宅の庭の手入れが以前にも増し



ガーデンカフェ「Time」(にかほ市大竹)



佐々木氏手製の大竹散策マップの一部

て熱心になった」と語る。来店客も、「道案内してもらった」、「方言を教えてもらった」などと、住民との何気ないやり取りを楽しんでいる。

佐々木氏自身も、来店客から地域に関する質問を受けたことをきっかけに、2010年から地域の魅力を発信する取組みを始めた。毎年春になると、住民の協力の下、地域の歴史を辿る散策ツアー「千年の村・大竹の花紀行」を開催し、郷土料理の振舞い、語り部による昔語りなどを行っている。例年、参加者には首都圏からの県外客やリピーターもみられ、2018年は約20人が住民との交流を図った。

c 今後の展望

佐々木氏が以前訪れたドイツの農村部では、1960年代以降、都市部への人口流出の防止や地域の持続的発展を図るため、景観美化に取り組む活動が実施されている。佐々木氏は、大竹地域でも、地域が一丸となり景観美化を通じた居心地のよい地域づくりを行い、人的交流を活性化させたいと考えている。

(3) オープンガーデン秋田

「オープンガーデン」とは、一般の住宅、高齢者施設や病院といった施設、コミュニティエリアなどの庭を一定の期間公開するという活動で、1920年代にイギリスで始まった。秋田県で

は、2011年にガーデニング愛好家が集まり「オープンガーデン秋田」（現会長：石山雅明氏）を組織し、2012年より自慢の庭を公開している。

a 取組みの経緯

オープンガーデン秋田は、「一人でも多くの人にガーデニングの輪を広げ、心豊かな社会づくりに貢献できること」を目標に、活動を始めた。2020年12月現在、県内8市町に住む会員23名、庭の公開は行わない準会員4名、生花店やガーデンカフェといった協賛店8店が参加し、庭巡りのガイドブックの作成・販売、岩手県のオープンガーデンの会との交流などを行っている。

活動のメインとなる庭の公開は、毎年、バラが満開となる6月に実施している。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響などから公開を中止する会員がみられたものの、15名が自宅の庭を公開した。例年、年配者を中心に県内外から見学者が訪れ、1か所の平均見学者数は100人弱となっているが、横手市にある美容院の庭の見学者数は約600人に上る。

b 今後の展望

会の設立から日が浅いこともあり、県内では活動への馴染みが薄く、近隣住民への対応、見学者のマナー向上などの課題がみられる。また、ここ数年、高齢化により庭の手入れが難しくなったという理由から退会する会員が散見される



オープンガーデン秋田による庭の公開の様子



オープンガーデン秋田の会員の庭

ようになった。一方で、会員に影響され近隣の住宅でガーデニングを始めたケースが見受けられる。見学者からも「オープンガーデンへの訪問をきっかけに、ガーデニングに関心を持った」、「庭づくりの参考にしている」などといった嬉しい声が聞こえる。石山会長は、「オープンガーデンは、単に庭の公開や見学を行うだけでなく、庭を通して地域の人たちや同じ趣味を持つ人たちとの交流を楽しむ場でもある。会員、準会員を問わず、参加者を増やし、活動を活発化したい」と語る。

3 まとめ

取材にご協力いただいた方々は、期待以上の反響に驚くと同時に、多くの人を引き寄せる花の魅力に改めて感じ入っていた。花は、人々に季節の変化を知らせるだけでなく、時に心を癒し、時に元気づける力を備えているのではないだろうか。

3月に入ると、例年、ガーデンカフェTimeでは、ムスカリ、クロッカスなどが花を咲かせる。6月は多種多様な花々が見頃を迎え、雲昌寺とオープンガーデン秋田の公開時期でもある。北国で花を楽しむことのできる期間は、決して長くない。ぜひとも、時間を見つけ、各所を訪れていただきたい。（相沢 陽子）